

1 基本情報

施設名称	大阪市立修道館
施設所管課・担当	経済戦略局 スポーツ部 スポーツ施設担当
条例上の設置目的	修道館は、柔道、剣道その他これらに類するスポーツの場を提供することにより、市民の心身の鍛錬に資するとともに柔道剣道等の普及振興に寄与することを目的とする。
業務の概要	市民に、柔道、剣道、薙刀や弓道を行う場を提供し、日本古来の伝統武道に接する場を提供することにより、武道の普及振興を図る。
成果指標	アンケート調査による利用者満足度数値
数値目標	利用者満足度80%以上
指定管理者名	公益財団法人大阪武道振興協会
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日（5年間）
評価対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

2 管理運営の成果・実績

成果指標	利用者数	利用者満足度
数値目標		80%
年度実績		94.0%
達成率		117.5%

利用状況

	当年度	前年度	前年度比
利用人数	16,172	16,143	100.2%
稼働率			

3 収支状況

収入		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
業務代行料	実績	38,516,255	38,516,255	2,671,955	
	計画	35,844,300	35,844,300		
利用料金（使用料）収入	実績	7,765,570	7,527,240	-734,430	夏季の外出を自粛 少子化で青少年の来館が減少
	計画	8,500,000	8,500,000		
自主事業収入	実績	3,916,600	4,075,590	86,600	夏季の外出を自粛 少子化で青少年の来館が減少
	計画	3,830,000	3,830,000		
その他収入	実績	699,501	1,125,805	-3,000,499	少子化で青少年の来館が減少 特に柔道の物品購入者が減少
	計画	3,700,000	3,700,000		
合計	実績	50,897,926	51,244,890	-976,374	
	計画	51,874,300	51,874,300		

支出		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
人件費	実績	24,524,155	21,778,358	-1,616,245	
	計画	26,140,400	26,340,400		
物件費	実績	11,441,431	9,731,068	2,041,431	計画時と比べ諸物価が高騰
	計画	9,400,000	9,200,000		
修繕費	実績	682,970	1,323,883	-2,317,030	
	計画	3,000,000	3,000,000		
自主事業支出	実績	10,706,587	12,017,428	-2,327,313	
	計画	13,033,900	13,033,900		
その他支出	実績	472,121	2,619,193	172,121	
	計画	300,000	300,000		
合計	実績	47,827,264	47,469,930	-4,047,036	
	計画	51,874,300	51,874,300		

令和7年度 指定管理者年度評価シート

4 管理運営状況の評価（1次評価）

（1）成果指標の達成

評価項目	達成率	評価	特記事項
利用者満足度	117.5%	A	

（2）管理経費の縮減

市費の縮減に係る取組状況	評価	特記事項
<p>・光熱水費の料金が上がり、職員だけでなく利用者の皆様、関係武道団体の皆様も協力して、SDGsの取り組みの一環として光熱費の節約に取り組みました。修理できない旧型の電気機器やガス機器はエネルギー消費が少ない同型機種に交換することで、光熱費を節約しました。修道館では道場の照明、会議室や事務室の蛍光灯も間引きしました。</p> <p>・大会や昇級審査は、ホームページ（サイト）をご覧いただいて、申し込みをメールでいただくなど、郵送代、紙代、電話代を節約し、さらに申込用紙の様式は、そのまま大会準備作業や翌年の申し込みにコピーできるよう、毎年の同一様式とし、申し込み側の利便性の向上と道場側の正確性向上を実現しました。一方、IT環境にない規模の道場については、紙媒体での掲示や、参加勧奨のための案内の郵送や電話による勧奨を継続しました。</p> <p>・競技団体は、貸館の利用ですが、大会等の全体の経費削減にもご協力いただきました。会議室、講師控室、応接室の利用は事前に申し込みいただき、必要最小限にお願いしました。さらに修道館の自主事業では、終日であった開催時間を、半日に時間短縮し、大会時間を短縮して、空き時間で自由に練習したり指導を受けたりできるなど参加者に武道を楽しんでいただきました。</p> <p>・職員間も紙媒体での情報交換は最小限とし、ラインやメール送信やパソコン内の閲覧を推奨し、社内でも徹底的に無駄を省きました。備品はもちろん、消耗品など「もの」を大切に扱う精神を養い、年少の利用者（練習生）にも指導者として範を示しております。</p>	B	

（3）管理運営の履行状況

評価項目	評価	特記事項
施設の設置目的の達成及びサービスの向上		
施設の管理運営	B	
事業計画の実施状況	B	
施設の有効利用	B	
社会的責任・市の施策との整合性	B	

5 利用者ニーズ・満足度等

<p>○昨年度から継続している取り組み</p> <p>ご利用の方からのご質問、ご意見をお聞きすることをまず第一としました。館内で気づかれたこと、疑問に思ったことを口頭でもお教えいただけるよう、すぐにお答えさせていただけるよう、話しやすい受付の接遇を心がけております。アンケートに書くほどではないけれど、施設の存在自体を大阪市や管理者に感謝しているという声が多かったです。</p> <p>さらに市内だけでなく遠隔地の利用者から感謝いただくことが多くなりました。毎月、石川県から、兵庫県、滋賀県から定期的に練習に参加されている利用者がおられますし、例年ですが武道の近畿大会、全国大会だけでなく、公的な武道団体でない私的な武道愛好家グループの例会など、中規模な練習の場としての利用が広範囲の府県に拡大しているためです。</p> <p>ここでの鍛錬が昇段につながったとして、指導の先生に感謝します、よろしくお伝えください、という感謝の声は多数寄せられています。</p> <p>大阪市のスポーツ施設に係るアンケート調査を長期間実施し、自由記入欄の記載内容を参考としました。</p> <p>○昨年度に続き夏季の暑気対策について</p> <p>日中午後開催の教室の参加者の方につきましては、エアコンのある会議室を開放し、来館時や稽古の合間に、休憩して体温の調節をしていただきました。</p> <p>○利用料金、特に高額になる専用使用や弓道教室の料金支払いについて</p> <p>現金払いが原則ですが、クレジットカードや交通系カードをご利用いただきました。</p> <p>○虫が多いことは、公園の自然環境なので、ご理解いただきますようお願いしつつ、特にムカデやハチについて専門家による害虫駆除を実施しました。</p>
--

令和7年度 指定管理者年度評価シート

6 外部専門家意見

年間利用者数は16,172人、専用使用は675件となっており、柔道・剣道・なぎなた等の武道活動の拠点として継続的に利用されている。また、高校・大学の部活動や中体連等との連携、視覚障がい者の事業参加、近畿圏の道場・学校への利用勧奨など、単なる施設貸出にとどまらず、武道の普及・振興及び多様な参加機会の創出に取り組んでいる点は評価できる。

利用者満足度についても、「非常に満足」「満足」の合計が94%と高い水準にあり、令和4年度84%、令和5年度95%、令和6年度96%に続き、安定して高い評価を得ている。利用者や競技団体から直接意見を聴取し、施設運営や教室内容、安全管理等へ反映していることが、こうした評価につながっているものと考えられる。

収支面では、利用料金収入約777万円、事業収入約392万円、業務代行料約3,584万円等を含む総収入約5,090万円に対し、管理運営経費は約4,783万円で、約307万円の収支プラスを確保している。物価上昇等により人件費・管理費が増加する中、省エネルギー機器への更新等によって光熱水費の抑制に取り組んでいる点も評価できる。

一方、自主事業等収支内訳では、教室等事業全体について収入約392万円に対して支出約1,071万円となり、約679万円の収支マイナスが計上されている。特に「教室事業」は収入約89万円に対して支出約628万円、「大会参加費」は収入約84万円に対して支出約224万円となっている。ただし、教室経費には柔道・剣道のみならず、なぎなた等を含む指導事業の謝礼等が含まれていることから、この数値のみをもって個別教室の採算性を判断することには留意が必要である。

今後は、武道振興という公共的使命を前提としながら、柔道・剣道・なぎなた・居合道、講習会、大会等について、事業別の参加者数、直接経費及び公共的成果を可能な範囲で区分して把握することが望まれる。その上で、収益性のみで事業を評価するのではなく、初心者育成、青少年育成、競技力・技能向上、障がい者の参加、伝統文化の継承等の成果を併せて評価する仕組みを構築することを期待する。

7 最終評価

評価項目		評価	所見
成果指標の達成		A	
市費の縮減		B	
管理運営の履行状況		B	
施設の設置目的の達成及びサービスの向上	施設の管理運営		
	事業計画の実施状況		
	施設の有効利用		
	社会的責任・市の施策との整合性		
総合評価		B	

1 基本情報

施設名称	大阪城弓道場
施設所管課・担当	経済戦略局 スポーツ部 スポーツ施設担当
条例上の設置目的	弓道場は、市民の健康増進と文化的な都市生活の確保に寄与することを目的とする。
業務の概要	市民に、柔道、剣道、なぎなたや弓道を行う場を提供し、日本古来の伝統武道に接する場を提供することにより、武道の普及振興を図る。
成果指標	アンケート調査による利用者満足度数値
数値目標	利用者満足度80%以上
指定管理者名	公益財団法人大阪武道振興協会
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日（5年間）
評価対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

2 管理運営の成果・実績

成果指標	利用者数	利用者満足度
数値目標		80%
年度実績		78.0%
達成率		97.5%

利用状況

	当年度	前年度	前年度比
利用人数	17,915	18,658	96.0%
稼働率			

3 収支状況

収入		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
業務代行料	実績	9,326,300	9,326,300	938,300	
	計画	8,388,000	8,388,000		
利用料金（使用料）収入	実績	6,714,550	6,835,850	-635,450	夏季の外出を自粛 射場が屋外のため熱中症等を警戒
	計画	7,350,000	7,350,000		
自主事業収入	実績	2,554,000	2,222,000	634,000	夏季の外出を自粛 射場が屋外のため熱中症等を警戒
	計画	1,920,000	1,920,000		
その他収入	実績	882,113	982,338	-1,077,887	
	計画	1,960,000	1,960,000		
合計	実績	19,476,963	19,366,488	-141,037	
	計画	19,618,000	19,618,000		

支出		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
人件費	実績	15,902,299	13,344,554	5,835,499	最低賃金の上昇 射場の安全確保
	計画	10,066,800	10,166,800		
物件費	実績	7,459,060	7,669,311	889,060	計画時と比べ諸物価が高騰
	計画	6,570,000	6,470,000		
修繕費	実績	1,086,250	1,188,385	86,250	
	計画	1,000,000	1,000,000		
自主事業支出	実績	403,920	587,855	-1,277,280	
	計画	1,681,200	1,681,200		
その他支出	実績	1,289,872	924,723	989,872	
	計画	300,000	300,000		
合計	実績	26,141,401	23,714,828	6,523,401	
	計画	19,618,000	19,618,000		

4 管理運営状況の評価（1次評価）

（1）成果指標の達成

評価項目	達成率	評価	特記事項
利用者満足度	97.5%	B	

（2）管理経費の縮減

市費の縮減に係る取組状況	評価	特記事項
<p>・光熱水費の料金が上がり、職員だけでなく利用者の皆様、関係武道団体の皆様も協力して、SDGｓの取り組みの一環として光熱費の節約に取り組みました。修理できない旧型の電気機器やガス機器はエネルギー消費が少ない同型機種に交換することで、光熱費を節約しました。弓道場に関しては、誤射の心配があるので、照明は間引くことができませんが照明を順次LEDに切り替え、電気代の削減をある程度実現しました。</p> <p>・大会や昇級審査は、ホームページ（サイト）をご覧いただいて、申し込みをメールでいただくなど、郵送代、紙代、電話代を節約し、さらに申込用紙の様式は、そのまま大会準備作業や翌年の申し込みのコピーができるよう、毎年のも同様式とし、申し込み側の利便性の向上と道場側の正確性向上を実現しました。一方、IT環境にない規模の道場については、紙媒体での掲示や、参加勧奨のための案内の郵送や電話による勧奨を継続しました。</p> <p>・競技団体は、貸館の利用ですが、大会等の全体の経費削減にもご協力いただきました。会議室、講師控室、応接室の利用は事前に申し込みいただき、必要最小限にお願いしました。</p> <p>・職員間も紙媒体での情報交換は最小限とし、ラインやメール送信やパソコン内の閲覧を推奨し、社内でも徹底的に無駄を省きました。備品はもちろん、消耗品など「もの」を大切に扱う精神を養い、年少の利用者（練習生）にも指導者として範を示しております。</p>	B	

（3）管理運営の履行状況

評価項目	評価	特記事項
施設の設置目的の達成及びサービスの向上		
施設の管理運営	B	
事業計画の実施状況	B	
施設の有効利用	B	
社会的責任・市の施策との整合性	B	

令和7年度 指定管理者年度評価シート

5 利用者ニーズ・満足度等

○昨年度から継続している取り組み
ご利用の方からのご質問、ご意見をお聞きすることをまず第一としました。館内で気づかれたこと、疑問に思ったことを口頭でもお教えいただけるよう、すぐにお答えさせていただけるよう、話しやすい受付の接遇を心がけております。アンケートに書くほどではないけれど、施設の存在自体を大阪市や管理者に感謝しているという声が多かったです。
さらに市内だけでなく遠隔地の利用者から感謝いただくことが多くなりました。毎月、石川県から、兵庫県、滋賀県から定期的に練習に参加されている利用者がおられますし、例年ですが武道の近畿大会、全国大会だけでなく、公的な武道団体でない私的な武道愛好家グループの例会など、中規模な練習の場としての利用が広範囲の府県に拡大しているためです。
ここでの鍛錬が昇段につながったとして、指導の先生に感謝します、よろしくお伝えください、という感謝の声は多数寄せられています。
大阪市のスポーツ施設に係るアンケート調査を長期間実施し、自由記入欄の記載内容を参考としました。
○的場の安土が固いという声について
平常の休憩時間の「ほぐし」だけでなく、的的の中間や上部の土が固くなるので 昨年度に続き、職員が、河内長野にある木工場の木くずを取りにいき、出身大学柔道部生10名以上をアルバイトに、毎週月曜日夜間、射を行わない初級弓道教室の時間に限って安土に木くずを混ぜて全体をほぐしました。昨年度と同時期に整備事業をしたので、「個人利用の時間帯を1日も休まずに整備時間を工夫してくれたのは評価する」「毎年連続して整備してくれた」「安土が柔らかく矢が抜きやすい」と利用者から評価されました。
○虫が多いことは、公園の自然環境問題なので、ご理解いただきますようお願いしつつ、特にムカデやハチについて専門家による害虫駆除を実施しました。
○利用料金、特に高額になる専用使用や弓道教室の料金支払いについて
現金払いが原則ですが、クレジットカードや交通系カードをご利用いただきました。
○夏季が酷暑であったことについて
本来、有料である会議室について専用使用がない場合は、冷房を効かせて一部を無料開放することにより、利用者が休憩室にして体温調整できました。
○不必要な観光資源としての利用のお断りについて
弓道場は、大阪城ホールや駐車場が近いため、日ごろ目にできない弓道の見学希望が多いですが、誤射の危険性も伴うので、多数の観覧等は原則お断りさせていただいております。

6 外部専門家意見

弓道場は年間個人利用者17,915人、専用使用134件となっており、弓道人気を背景に高い需要が維持されている。弓道教室についても施設規模上、近畿圏でも最大限の参加人数に達していると報告されており、休館日を自主事業実施のため年間を通じて臨時開館するなど、既存施設を最大限活用した利用機会の提供が行われている。
教室事業については、初級・中級教室を合わせて収入約255万円に対し支出約40万円、約215万円の収支プラスとなっており、利用者ニーズと収益性の双方が高い事業となっている。初級・中級とも一定の定員を確保しており、弓矢のレンタル等を組み合わせたサービス改善も行われている点は評価できる。
一方、施設全体の収支については、総収入約1,948万円に対して管理運営経費約2,614万円となり、約666万円の収支マイナスとなっている。特に人件費約1,590万円が総収入の約8割を占め、収支を大きく左右する構造となっている。指定管理者からは、大阪城周辺という立地特性から観光客が多く、外周道路や駐車場に面しているため、防犯上職員配置を増やしていることが人件費増加の要因として示されているが、「必要だから仕方ない」で終わらず、本当にどの時間帯・業務に何人必要なかを可視化してほしい。
※指定管理者への評価の域を超えるが、弓道場は「集客努力を求めれば解決する赤字ではない」施設の一つだと考える。需要創出ではなく、「需要が十分あるのになぜ赤字なのか」というコスト構造と指定管理料水準の検証も求められる。

7 最終評価

評価項目	評価	所見
成果指標の達成	B	
市費の縮減	B	
管理運営の履行状況	B	
施設の設置目的の達成及びサービスの向上		
施設の管理運営		
事業計画の実施状況		
施設の有効利用		
社会的責任・市の施策との整合性		
総合評価	B	